



勇太と光が DW に来てから暫くまだアンティラモンや叶と会う前の頃。
「ねぇ…前から聞こうと思ってたんだけどデビドラモンはどうして光が好きなの？」
「ヴォーボモンはすきじゃないの？」

雨で今日は、雨宿りで一日過ごそうという中、一緒にだらけていたヴォーボモンとデビドラモン。

そんな気怠い空気の中、ヴォーボモンが口を開いた。
「う～ん、最初の時は嫌いだったかも、ずっと怒ってるし、勇太やデビドラモンに八つ当たりばかりだったし。」
「デビドラモンは…デジヴァイスでひかりとところがつながってたから、ひかりがずっとくるしくて、つらいのわかった。」
「可哀想だったから？」
「…うんうん。」

それとおなじくらいやさしいのがわかったから。
でも、それがくるしかったり、いたいのでかかれてるのわかったから。」
「…今なら、ちょっとだけ分かるかも、勇太みたいに遊んでくれたり、優しくはしてくれないけど…オーガモンと戦った時とか頑張ってるのを馬鹿にしないでお尻？叩く？のしてくれたから。」
「ヴォーボモンは勇太すき？」
「大好き！いつも遊んでくれるし！料理美味しいし！僕にはデビドラモンと光みたいに勇太の心？は繋がってる感じはまだないけど。」

勇太が怒ってる事や悲しんでる事が僕と一緒にのよく分かるから。
僕は皆んなを見返したいって思ったけど…勇太は理由もなくこっちに来ちゃって、辛い事も多いから…だから笑ってて欲しいんだ。

正直今は、勇太の悲しい顔見ないとか…ちょっと嫌だけどお母さん達のところに帰れるように頑張りたいかな。

でも…そっか、勇太と違うけど…光にも悲しい顔して欲しくないかも。」
「ゆうたたちかえったらヴォーボモンどうするの？」
「う～ん、レジストシティに帰るかな？」

デビドラモンも？」
「どうしょっかな…このすがたこわがるデジモンおおいから。」
「じゃあ一緒に暮らそうよ！デビドラモンまで離れちゃ寂しいよ。」
「え～、ヴォーボモンのおせわこれからずっとしないとなの～？デビドラモンはおねえちゃんだけどどうしょっかな～。」
「なっ!?お世話してるのは、僕の方だよ！」



キャッキヤとじゃれ合うふたりを遠くから見ていた光がぼつりと呟いた。

「ねえ勇太、あいつらってたま〜に変な空気出すときない？」

「…ちょっと、自分達のパートナーで変な事言い出すのやめてよ。」

ていうか、光がマニキュア欲しいって言うから作ってみてるのに、ほっぽり出さないで手伝ってよ。」

「…飽きたのよ、手汚れるし。」

「はあ〜。」

勇太の深いため息が漏れた。